HPはこちら

東日本ユニオン NEWS

ＪＲ東日本労働組合
発責　教育・広報部
2021 年 6 月 9 日 №330

夏季手当シリーズ⑮

ＪＲ東日本は赤字下でも 未来に向けた投資ができる経営体力がある！

6 月 4 日に開催した申第 13 号「2021 年度夏季手当に関する申し入れ」の第 2 回団体交渉において経営側は「2 期連続の赤字は避け、社員一丸となって決意と実行の 1 年とし、黒字化を目指す」としています。

また、インバウンドやビジネスでの需要は以前のようには戻らず、鉄道需要は構造的な変化の局面にあり、この変化にしっかりと対応し、危機感をもって取り組んで行かなければならないとも述べています。

私たちは、職場から様々なコスト削減の取り組みにも協力して進めていますが、夏季手当を減らしてまで黒字化を目指すことは認められず、会社の発展と同時に将来にわたり安心・安定して生活できる環境を得るために夏季手当の要求満額回答を求めます。

業績は回復傾向にある！

組合の主張

○1 年前は通期業績予想の見通しも示せない状況だったが、今期は 1 兆 6,770 億円という見通しも立てられている。根拠がなければ予想は立てられない。2020 年度は 1 兆 1,841 億円という予想だったことからすると、今期の 1 兆 6,770 億円は強気な見通しだが、社員の努力により達成できるものだと考える！

○2020 年度の期末決算は負債を増やしながらも固定資産を大きく増やしている。赤字決算に伴い純資産は 5,371 億円と減ったが、資金調達により負債を増加させたものの、設備投資を通じて固定資産は 8,280 億円に増加している。赤字下とはいえ、借金してまでも未来への設備投資ができる経営体力がある！

○足元の状況について、緊急事態宣言下によるゴールデンウイークの収入は不調ではあったものの、6 月 1 日現在の営業実績では、定期収入が 2020 年比で 120.7%、コロナ禍以前の 2019 年比で 73.1%。定期外収入では 2020 年比 312.7%、2019 年比で 40.2%と様々な現場社員の職場からの取り組みや努力により、業績は戻りつつある。また、ワクチン接種も各企業で進めていくとの政府からの報道もあり、楽観視はできないが、2021 年度の通期予想通りの数字を見込めるのではないか。

○「決意と実行の 1 年」を担うのは社員一人ひとりであり、努力を訴えるのであるのならば、それに伴う夏季手当の回答を求める！

夏季手当まで削減しての黒字化は認められない！